

真宗学会

◇『親鸞教学』34号発行。七月二〇日付

特集 真宗学の現在

親鸞教学の一指標

松原 祐善

真宗学の根本性格とその中心課

題—徳川期における行信論の

反省を手がかりとして—

藤原 幸章

真宗学の課題と方法論について

の断想

幡谷 明

真宗興隆—浄土真宗における教

団と教学—

寺川 俊昭

現生正定聚—その核心と外延—

本多 弘之

無神論と神信仰の問題

川崎 幸夫

〈座談会〉学と信仰—真宗学の

問題点をさぐる—

小野 蓮明

鈴木 幹雄

古田 和弘

本多 弘之

〈インタビュー〉今われらに問

われていること

—安田理深先生に聞く—

編集部

◇真宗学会研修会

七月八日・九日・十日

於 岡山県久米郡誕生寺他

指導

細川行信教授

九月二八日・二九日

指導

細川行信教授

宗教学会

◇宗教学夏期合宿ゼミナール

八月二十九日〜三十一日まで

於 高野山 高室院

テキスト『善の研究』西田幾多郎著

参加者Ⅱ大屋教授、武田助教授、築山助手、

院生ほか専攻学生多数。

本年度のゼミナールは、従来の反省を踏

まえ、学習・討論の時間を十分に取り入れ、

内容の充実を図った。

西洋哲学会

倫理学会

◇研究会

七月三日(火)午後二時半

自分に見えないもの

於 視聴覚教室

本学専任講師 池上 哲司

参加者Ⅱ訓覇教授、箕浦教授、鈴木助教授、

院生ほか専攻学生多数。

教育学会

◇教育学会夏期ワークショップ

七月十六日(月)〜十九日(木)

於 飛騨高山市国民宿舎

参加者Ⅱ石原・大竹教授、田中、土戸専任

講師、佐々木助手、学生二、三回生三十

余名。

テーマ別にグループに分れて学習会を行

った。熱心な討議やレクリエーションを通し

て、教官と学生、学生相互の親睦をはかる

ことができた。

国史学会

◇国史学会研究旅行

(藤沢市内・相模大山・箱根周辺)

* 九月二十七日(木)

国鉄藤沢駅十二時三〇分集合、藤沢市立

文書館、遊行寺、長生院見学、遊行寺泊。

*九月二十八日(金)

八時三〇分遊行寺出發、江の島神社、相模大山寺、阿夫利神社見學、小田原市小伊勢屋會館泊。

*九月二十九日(土)

八時三〇分小伊勢屋會館出發、塔の沢阿弥陀寺、箱根石仏群、箱根神社、宝物館見學、午後五時一〇分新幹線熱海駅解散。引卒指導Ⅱ柏原教授、堅田教授、佐々木(孝)助教授、豊島助手、木場非常勤講師、根井(日学)振・研究員) 現地指導で橋俊道氏にお世話をいただいた。

◇国史学会機関誌『尋源』第三一号発行。
我が国における弥勒信仰の一考察——弥勒踊と鹿島踊を中心として——

羽塚 郁子

△研究ノートⅤ

「憑きもの」研究の課題 木場 明志

△史料紹介Ⅴ

幕末の三河国木綿買継問屋『記録帳』

柏原 祐泉

△国史学会創立五十周年記念大会Ⅴ

〈研究発表要旨〉

虚無僧の湯聖の性格について 藤田 定典

八海山行者の憑祈禱 鈴木 昭英

教如教団の形成について——越後国を中心に——

大場 厚順

「歴史における直観と反省」主意

高根 俊成

藤沢清浄光寺の歳末別時念仏会

橘 俊道

△公開講演要旨Ⅴ

仏教民俗学の二十五年 五来 重

仏教史研究の流れ——五十周年を顧みる——

藤島 達朗

日本仏教史学会

◇四回生懇談会

七月五日(木) 午後二時半

於 アメリカヤ

参加Ⅱ北西教授、学生十九名。

◇三回生史蹟踏査 七月五日(木)

正午に大学正門前に集合、大極殿址、朱雀門址などの平安京史蹟や二条城を見学。

参加Ⅱ名畑教授、学生五名。

◇二回生懇談会

九月二十六日(水)

於 芹生

参加Ⅱ大桑助教授、学生十名。

東洋史学会

◇シルクロード展見學

七月五日 於 大阪市立美術館

参加者Ⅱ藤島助教授、安藤専任講師、桂華特研員、学生十余名。

国文学会

◇公開講演会

七月六日(金) 午後一時

於 二二〇二教室

題目

一 赤彦の歌論と教育思想

本学専任講師 有田静昭氏

一 中國の家族主義

大阪大学教授 日原利国氏

国文学・中国文学の在学生・卒業生及び一般聴衆者約百数十名が参加して、有意義な講演会であった。